

山口県病院協会 会報

2021 **7月号** No.72

- 発行日 令和3年7月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 三浦 修
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



特定医療法人南和会 みどり病院

〒740-1404

住 所 岩国市由宇町359-1

電 話 0827-63-0111

F A X 0827-63-2000

URL : http://www.nanwakai.jp/midori_hos/

CONTENTS (目次)

会員病院紹介	2ページ
令和3年度定時総会	3ページ
令和3年度顧問・役員一覧	4ページ
優良職員表彰 受賞者一覧	5～6ページ
協会役員コーナー	7ページ
病院スタッフコーナー	8ページ
諸会議報告	9ページ
部会コーナー	9ページ
お知らせコーナー	10ページ

会員病院紹介

理事長挨拶



特定医療法人南和会
みどり病院

理事長 吉居 俊朗

特定医療法人南和会は、昭和43年6月に玖珂郡由宇町（現在の岩国市由宇町）の地に設立。同時に周洋病院（現在の千鳥ヶ丘病院）を開設しました。昭和から平成、令和へと時代の変遷と共に医療制度が大きく変化する中、南和会は2つの病院、2つの介護老人保健施設、介護医療院を備えた特定医療法人として現在に至ります。

みどり病院は、長寿社会に対応する患者様中心の医療を目指し、県内3施設目になる老人保健施設みどり荘を併設して、昭和63年8月に開設しました。開設当初にご尽力いただいた職員のうち、8名の方が当院にて現在も活躍いただいております。また平成31年3月に介護療養病床60床を介護医療院へ転換、医療療養病床120床に介護医療院60床を併設施設として併せ持つ病院となりました。

私がみどり病院院長職を拝命した平成11年は、翌年に介護保険制度のスタートを控え、併設していたみどり荘を新築移転するなど体制整備を進めました。平成16年に前任の二宮淳明先生から託され理事長職を拝命いたしました。当時は財政構造改革の下、医療・介護報酬についても例外ではなく、社会保障制度改革の厳しい風が吹く中、諸先輩方に御教示いただきながら歩みを進め、平成30年に法人設立50周年を職員と一緒に祝いました。

今後、急激に進行する人口減少・超高齢社会による構成の変化をはじめ、社会情勢に不安要素が多くなる中、新型コロナウイルスを含めた感染症対策、新たな課題対応も含めた社会保障制度の変革期において、積み重ねた経験を基に、これからの時代に併せた地域医療維持に努めて参りたい所存です。

皆様より尚一層の御指導並びに御支援を賜りますようお願い申し上げます。

〈病院の現状〉

1) 概要

名称	医療法人 南和会 みどり病院	平成11年11月	新築移転 老人保健施設みどり荘 (千鳥ヶ丘病院併設)
開設者	吉居 俊朗	平成12年4月	介護保険法 施行 みどり病院 療養型病床群へ移行 (医療保険対応90床 介護保険対応90床)
所在地	山口県岩国市由宇町359-1	平成23年6月	みどり病院 病床変更 (医療療養120床 介護療養60床)
T E L	0827-63-0111	平成30年6月	法人設立50周年
F A X	0827-63-2000	平成31年3月	みどり介護医療院 開設 (60床 介護療養病床転換)
E-mail	midorihp@nanwakai.jp		
U R L	http://www.nanwakai.jp/midori_hos/		
病床数	医療療養病床120床		
介護医療院	60床		
診療科	内科、リハビリテーション科		

2) 沿革

昭和43年6月	医療法人南和会 設立 周洋病院 開設
昭和58年3月	周洋病院 全面改築
昭和63年8月	みどり病院 開設 (180床) 10月 老人保健施設みどり荘 開設 (みどり病院併設)
平成2年3月	特定医療法人 認可
平成5年5月	名称変更 千鳥ヶ丘病院 (旧：周洋病院)
平成8年8月	老人保健施設なんわ荘 開設

3) 特徴

みどり病院は、岩国市南部の由宇町に位置し、柳井市・周防大島町とも交通アクセスしやすい場所に位置します。また、近くにはプロ野球球団の2軍練習場もあり、シーズン中の週末は少し賑やかになります。季節のうつろいを感じられる閑静な山あいの環境にて、併設のみどり介護医療院並びに法人各事業所と共に基本理念「心のこもった温かい医療と福祉の提供」を目指し、患者様が自立した日常生活を営むことができるよう日夜支援に努めています。

令和3年度 定時総会開催

日時 令和3年5月26日（水）15：30～17：00

場所 山口グランドホテル（山口市小郡黄金町1-1）



開 会

令和3年度の総会は、新型コロナウイルス感染症予防のため、出席者間の空間を十分に取っての開催とした。また、特別講演も中止とした。

天津昇次事務局長による開会宣言がなされ、三浦修会長は挨拶で、新型コロナウイルスの予防接種も進んでいく中、病院の一層の団結と協力が必要であると述べた。

総会成立宣言

審議に先立ち、三浦議長より、総会出席者は当協会の会員総数130名に対して110名（うち委任状83名）であり、総会が有効に成立する旨宣言された。

議事録署名人選出

本日の議事録署名人として、玉木病院玉木病院長ならびに阿知須同仁病院西田理事長を選出した。

報告事項

議案に先立ち、天津事務局長より令和3年度事業計画及び収支予算について詳細に説明が行われた。

議案審議

○議案第1号

「令和2年度一般社団法人山口県病院協会事業報告書及び収支決算書の承認について」

天津事務局長より、令和2年度に実施した各種事業内容について説明と報告がなされた。さらに、令和2年度における当協会の収支決算状況について収支決算書に基づき説明と報告があり、続いて城甲監事より、令和2年度の事業並びに決算関係資料について尾中監事とともに詳細に検討した結果、いずれも適正かつ適

切に処理されている旨監査報告が行われ、審議の結果、原案どおり可決承認された。

○議案第2号

「定款の一部改訂について」

理事の定数を18名以内へと変更し、また、理事会の開催を年6回以内と改める旨、天津事務局長より説明がなされた。さらに、昨今の感染症拡大等、集合形式での理事会開催が困難な場合を想定し、書面決議を可能とする議題が提案され、全項目について可決承認された。

○議案第3号

「役員選挙規則の一部改訂について」

天津事務局長より、役員立候補者について、年齢制限を設ける旨が説明され、可決承認された。

○議案第4号

「任期満了に伴う理事及び監事の改選について」

天津事務局長による任期満了に伴う理事及び監事の改選の議題提案に続き、小田裕胤選挙管理委員長から立候補者全員当選の宣言が行われ、総会の決議を経て新役員が滞りなく選任された。

○議案第5号

「顧問の委嘱の承認について」

顧問4名の委嘱について、事務局より説明がなされ、承認された。

閉 会

三浦議長より、本日の定時総会はすべて終了したことが告げられ、議事の進行への協力に対する感謝の意を述べ閉会が宣言された。

令和3年度 一般社団法人山口県病院協会 顧問・役員名簿

令和3年度一般社団法人山口県病院協会定時総会及び総会後に開催された臨時理事会において、顧問・役員は下記のとおり選任された。

顧 問	江 里 健 輔	(阿知須同仁病院 顧問)
〃	小 田 裕 胤	(美祢市立美東病院 顧問)
〃	木 下 毅	(光風園病院 理事長)
〃	水 田 英 司	(小野田赤十字病院 名誉院長)
会 長	三 浦 修	(防府胃腸病院 理事長病院長)
副 会 長	神 徳 眞 也	(三田尻病院 理事長)
〃	馬 場 良 和	(周東総合病院 病院長)
常任理事	高 橋 幹 治	(片倉病院 理事長病院長)
〃	玉 木 英 樹	(玉木病院 病院長)
〃	林 弘 人	(関門医療センター 病院長)
〃	松 谷 朗	(周南市立新南陽市民病院 病院長)
〃	茶 川 治 樹	(岩国市医療センター医師会病院 病院長)
〃	西 田 一 也	(阿知須同仁病院 理事長病院長)
〃	稲 野 秀	(長門一ノ宮病院 理事長病院長)
理 事	桑 田 憲 幸	(光市立光総合病院 病院長)
〃	橋谷田 博	(周南記念病院 病院長)
〃	木 下 祐 介	(光風園病院 病院長)
〃	吉 居 俊 朗	(みどり病院 理事長病院長)
〃	清 水 昭 彦	(宇部興産中央病院 理事長病院長)
〃	末 兼 浩 史	(山口赤十字病院 病院長)
〃	藤 岡 顕太郎	(山陽小野田市民病院 病院長)
〃	沼 文 隆	(徳山中央病院 病院長)
監 事	尾 中 宇 蘭	(尾中病院 理事長病院長)
〃	城 甲 啓 治	(済生会山口総合病院 病院長)

受賞おめでとうございます

令和3年度 病院優良職員表彰 受賞者名簿

病 院 名	役 職	姓 名
阿 知 須 共 立 病 院	看 護 補 助	氏 永 敏 江
〃	看 護 補 助	平 原 千 恵 子
阿 知 須 同 仁 病 院	看 護 師	平 川 浩 子
〃	薬 局 長	山 下 貴 江
岩 国 市 医 療 セ ン タ ー 医 師 会 病 院	看 護 補 助 者	高 林 初 生
〃	看 護 師 長	村 橋 久 美 子
岩 国 中 央 病 院	看 護 師	亀 井 由 喜 美
宇 部 興 産 中 央 病 院	看 護 師 長	山 本 由 美 代
宇 部 仁 心 会 病 院	薬 局 長	土 井 亜 砂 美
宇 部 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院	看 護 師 長	岩 井 恵 子
〃	看 護 師 長	松 井 眞 由 美
宇 部 西 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院	看 護 補 助 者 チ ー フ	弘 重 文 崇
〃	看 護 補 助 者	横 山 文 子
大 田 病 院	准 看 護 師	立 山 千 鶴 子
〃	調 理 員	村 中 宏 美
岡 病 院	臨 床 検 査 技 師	江 崎 加 奈 子
岡 田 病 院	事 務 課 長	河 本 朋 子
〃	准 看 護 師	村 田 純 子
小 郡 第 一 総 合 病 院	看 護 師	井 上 艶 子
〃	看 護 師	安 村 典 子
小 郡 ま き は ら 病 院	公 認 心 理 師 主 任	岡 村 眞 子
〃	准 看 護 師	正 司 英 子
尾 中 病 院	准 看 護 師	木 下 恵 子
〃	看 護 補 助 者	戸 山 紀 代 美
片 倉 病 院	事 務 主 任	金 子 郁 子
〃	病 棟 主 任	西 村 寿 理 香
鹿 野 博 愛 病 院	栄 養 科 主 任	中 村 輝 子
玖 珂 中 央 病 院	看 護 補 助 者	梶 本 廣 裕
〃	栄 養 室 室 長	末 田 喜 代 美
下 松 病 院	准 看 護 師	村 野 和 美
光 風 園 病 院	介 護 福 祉 士	岩 武 田 部
〃	病 棟 科 長	安 友 清 修
高 嶺 病 院	看 護 師	友 清 恵 子
〃	看 護 師	高 林 千 恵 子
斎 木 病 院	外 来 看 護 師 長	高 青 木 文
坂 本 病 院	厨 房 主 任	白 川 原 晴
〃	看 護 補 助 主 任	井 上 眞 由 美
佐 々 木 外 科 病 院	病 棟 主 任	井 上 眞 由 美
サ ン ポ プ ラ 病 院	准 看 護 師	島 田 恵 美

病 院 名	役 職	姓 名
重 本 病 院	看 護 主 任	有 村 孝 晴
〃	看 護 師	峯 永 多 美 子
柴 田 病 院	看 護 補 助 者	金 子 里 美 美
周 南 病 院	病 棟 看 護 師	濱 口 喜 美 江
周南市立新南陽市民病院	総 務 課 長	伊 藤 義 浩
周南記念病院	薬 剂 科 長	今 田 時 雄
周南リハビリテーション病院	看 護 主 任	三 戸 智 子
〃	看 護 主 任	吉 田 房 子
桑 陽 病 院	看 護 師	打 雲 井 直 樹
田 代 台 病 院	准 看 護 師	田 原 直 豊
〃	介 護 主 任	松 浦 由 美 子
都 志 見 病 院	看 護 師	松 浦 次 桂 子
〃	看 護 師	矢 村 夕 力 子
徳 山 医 師 会 病 院	准 看 護 師	金 瀬 夕 信 子
〃	准 看 護 師	黒 岡 夕 茂 代
仁 保 病 院	薬 局 員	太 増 森 川 村 藤 朋 都 勉
〃	医 療 事 務 科 師	野 川 村 藤 茂 真 満 朋
光 中 央 病 院	放 射 線 科 師	森 田 齋 丸 古 山 廣 渡 河 石 重 高 橋 林
日 良 居 病 院	准 看 護 師	齋 藤 茂 野 田 部 崎 田 富 橋
福 永 病 院	調 剤 助 手	丸 古 山 廣 渡 河 石 重 高 橋 林
〃	医 療 事 務 員	齋 藤 茂 野 田 部 崎 田 富 橋
防 府 病 院	施 設 管 理 員	古 山 廣 渡 河 石 重 高 橋 林
〃	施 設 管 理 員	山 廣 渡 河 石 重 高 橋 林
防 府 胃 腸 病 院	看 護 副 部 長	高 伊 村 末 五 檜
防 府 保 養 院	准 看 護 師	伊 村 末 五 檜
松 本 外 科 病 院	看 護 師	伊 村 末 五 檜
三 田 尻 病 院	看 護 師	伊 村 末 五 檜
〃	准 看 護 師	伊 村 末 五 檜
山口県済生会下関総合病院	看 護 師 長	伊 村 末 五 檜
〃	副 看 護 師 長	伊 村 末 五 檜
山口県立総合医療センター	看 護 部 副 部 長	伊 村 末 五 檜
山 口 よ し き 病 院	保 育 士	伊 村 末 五 檜
〃	准 看 護 師	伊 村 末 五 檜
山口リハビリテーション病院	看 護 補 助 者	伊 村 末 五 檜
湯 野 温 泉 病 院	看 護 師	伊 村 末 五 檜
〃	厨 房 職 員	伊 村 末 五 檜

受賞者人数 75名

協会役員コーナー

コックピットと手術室



独立行政法人国立病院機構
 専門医療センター

病院長 林 弘人

飛行機に乗っていると、「本日は気流の悪い中の飛行となり揺れることが予測されます」という機長からのアナウンスにもかかわらず、着陸まで極めてスムーズなフライトでほっとすることがあります。たぶん機長の腕によるところが大きいのでしょうか。もしかすると機長の前世は鳥だったのかもしれませんが。

以前、JALの機長と話をしていた時のこと、直感的にこの人とはどこか通じ合うものがあるなと感じました。機長自身も手術室の外科医と同じ感覚ではないでしょうか、と仰っていました。

その機長に教わった言葉に“TAG”というものがあります。安全な運航を確保するためには、機長、副操縦士及び航空機関士間の勾配はあまり大きくても逆に小さ過ぎてもいけないそうです。これが適当であれば、クルー間の自由なコミュニケーションが保たれ、航空機の運航もモニターも改善されます。仮にこの勾配が大き過ぎると、副操縦士や航空機関士は積極的に話しかけなくなり、機長の行動をモニターする彼等の役割が疎かになるでしょう。逆にこれが小さ過ぎると、今度はいざという時、機長が自らの権限を行使できなくなる危険性があると思われます。ここでいう勾配は、TAG（Trans-Cockpit Authority Gradient；操縦室内権威勾配）と呼ばれており、コックピット内のコミュニケーションが、クルー間の相対的な力関係という要素によって大きく影響されるということを示すものです。

手術室においてもスタッフ間の良好なコミュニケーションが極めて重要であり、執刀医はまさに“手術室の機長”といったところでしょうか。

What on earth happened ?



周南市立
 新南陽市民病院

病院長 松谷 朗

山口県病院協会の皆様こんにちは。今月の会報もコロナの話題が幾つも出てきてうんざりかもしれませんが、まだまだしばらくは誰もがコロナと付き合っていく行かなくてはなりません。年内には収束していることを願うばかりです。何れにしても、昨年初からの2年間という期間は人類にとって極めて重大な年月であることに疑いはなく、その時期を体験していることは、ある意味では大変貴重な経験であろうとも考えています。

この自粛期間に“ベスト”と“137億年の地球の歴史”という本を読みました。前者は読まれた方も多いと思うので省きますが、後者はあるイギリスの作家が自分の子供に読ませるために書いたとされる、宇宙の初めから、人類誕生そして現代に至るまでを、科学と歴史の隔てなく述べたものです。原題は“What on earth happened?”であり、on earthが“地球に”という意味と“一体”という意味の一種のシャレで、ダジャレ好きの世代としては読まない訳には行かないタイトルであったことも読むことになった理由の一つです。これを読むと人類がいかに残虐行為を行い、幾つかの文明を滅させたか、そこには天然痘、インフルエンザなどの感染症が関係してきた、また欧米人が人種差別を延々とやってきたこと、キリスト教もユダヤ教もイスラム教も皆根っこの部分はつながっていることなどがわかります。

某国の前大統領も某国の現首相もこの本を読めばもう少しまともな政策や外交交渉、あるいは科学的なコロナ対策ができたのではと悔やまれます。

病院スタッフコーナー

コロナ禍での多職種連携



美祢市立病院
医療技術部長兼薬剤科長

三春 安啓

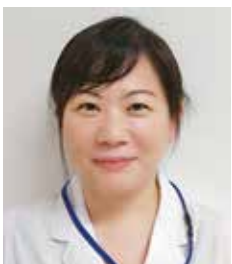
当院は、平成2年4月に開設された138床の病院です。所属する医療技術部は、放射線科、臨床検査科、栄養科、リハビリテーション科、臨床工学科、薬剤科の6科からなる部門です。

月1回、業務連絡委員会を行い、情報共有、協議の場を設けています。以前より、医療技術部と多職種との協働、連携は各科でも進めて参りました。例えば、臨床検査科の健診エコーや外来採血、臨床工学科の透析室業務、リハビリテーション科の患者さんの病室への送迎、薬剤科の病棟薬剤業務などです。

コロナ禍において、医療従事者の負担は増す一方で、看護部から医療技術部に協力の相談がございました。過去4回の公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価受審の効用と思いますが、各種委員会の整備と多職種間で協議することの下地はできあがっております。すぐに看護部と医療技術部とで協議し、できることから行っていくことになりました。病院正面玄関での検温の看護部、事務部、医療技術部での分担、検査やリハビリ前後のさらなる付きそい送迎、一般注射薬の混注、薬剤自己管理への関与増など、できることから行い、継続して見直していくことといたしました。

院内どの部門も人員不足の中で、コロナ禍という緊急事態下においては、職種・専門性・立場の壁を取り払い、専門性を生かしながらも職種を超えた相談、連携も必要です。現場担当者の意見を聞いてみると、案外スムーズに開始できる場合もあります。その職種に任せっぱなしではなく、一緒にやっていく、進んでいく、相談していくことで、このコロナ禍を乗り越える日が来ることを切に望みます。

患者満足度向上プロジェクト



独立行政法人地域医療推進機構
下関医療センター
診療放射線技師

坂田 朋

私たちは部内で様々な取り組みを行っていますが、その1つとして昨年度より部内5S活動を開始しました。1年間本気で取り組んだことで、今まで見えなかった問題点やなんとなく気付いていたのに取り組んでいなかったことも改善され、かなり働きやすい環境が整いました。そして次に、患者さんの立場になって見える景色での5S活動「患者満足度向上プロジェクト」を立ち上げました。

まず、診療放射線技師・看護師・事務員でモダリティ別にチームを作り、実際に患者役となって同じ行動・同じ目線を体験しました。車いすに乗り、検査着に着替え、待合室で待ち、検査台に上がるなど、普段と同じようになっています。すると「車いすはどこで待ったら良いのか」「検査台が上がると不安になる」「更衣室が狭くて着替えにくい」「こんなところが汚れている」など、患者さんの心の声のいろいろが聞こえてくるようでした。

改善の結果、清潔感はレベルアップし、車いすの待機場所や寝台の座る位置に目印をつけたり、着替えやすい更衣室に改善するなど患者さんの不便を解消し、少しでも不安をやわらげ楽に検査を受けられる環境を整えました。そして私たちも技術を提供するだけでなく、患者さんの立場に立って考える事の大切さを改めて感じることができました。

患者さんが安心して医療を受けることができるよう、診療放射線部はこれからも様々なことに取り組んでいきたいと思っています。

諸会議報告

令和3年度 第1回理事会

日時 令和3年5月12日（水）16:30～18:00

開催場所 山口グランドホテル

【議 事】

- 令和3年度定時総会提出議案について
 - 令和2年度事業報告書及び収支決算書について
 - 任期満了に伴う理事及び監事の改選について
 - 定款の一部改訂
 - 役員選挙規則の一部改訂
 - 顧問の委嘱の承認

【承認事項】

- 令和3年度病院優良職員表彰について
- 令和3年度医療懇話会の開催について
- 第15回一般社団法人日本介護支援専門協会全国大会in山口への後援依頼について
- 再雇用職員への退職慰労金の支給について
- 一般社団法人山口県病院協会参与の委嘱の承認について

【報告事項】

- 県行政委員等の推薦について
 - 山口県予防保健協会 理事
副会長 神徳 眞也（再任）
 - 山口県循環器病対策推進協議会委員
副会長 神徳 眞也（新任）

・山口県看護職員確保対策協議会委員
常任理事 茶川 治樹（再任）

・山口県公衆衛生協会評議員
理 事 西田 一也（再任）

・山口県肝炎対策協議会委員
理 事 村上 不二夫（再任）

・山口県予防保健協会評議員
事務局長 天津 昇次（再任）

2. 県各種委員会等の報告について
三浦会長

・第2回新型コロナワクチン接種対策会議
(4月27日)

玉木常任理事

・令和2年度第2回山口県社会福祉審議会
(3月23日)

令和3年度 第1回情報管理委員会

日時 令和3年6月15日（火）15:30～17:00

場 所 山口県総合保健会館 第2研修室

【協議事項】

- 7月号の発行について
- 10月号の発行準備について
- その他

事務長部会コーナー

山口県病院協会事務長部会 第1回常任幹事会

日時 令和3年6月16日（水）15:30～16:40

開催場所 山口県総合保健会館 第2研修室

【協議事項】

- 令和3年度事務長部会総会および研修会について
- 令和3年度役員改選について
- その他



お知らせコーナー

山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰

山口県病院協会より推薦した9名の方が、多年にわたり看護業務に従事した功績により、令和3年度山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰を受賞されました。おめでとうございます。

氏名	病院名	氏名	病院名
児玉 まり子	阿知須同仁病院	中尾 郁子	光風園病院
篠原 智子	小郡第一総合病院	藤井 玲子	山口リハビリテーション病院
田中 智子	山口県立総合医療センター	丸山 美恵子	森田病院
谷口 裕子	済生会下関総合病院	水野 佳代子	安岡病院
近沢 三枝	山口大学医学部附属病院		

（氏名の50音順にて表記）

会員等の異動

会員の変更	変更後	変更前
・山口赤十字病院	病院長 末兼 浩史	名誉院長 名西 史夫
・小野田赤十字病院	病院長 佐藤 智充	病院長 清水 良一
・周防大島町立東和病院	病院長 足立 淳	病院長 村上 哲朗
・徳山中央病院	病院長 沼 文隆	病院長 那須 誉人
・美祢市立美東病院	病院長 竹中 一行	病院長 村上 不二夫
・山口県済生会下関総合病院	病院長 森 健治	病院長 津江 和成

事務局人事について

7月1日付

参与委嘱 天津 昇次

事務局長 光永 将

病院協会の主な行事予定

- 7月14日 事務長部会総会および研修会 （会場：山口県総合保健会館）
- 9月10日 第2回理事会 （会場：山口グランドホテル）

編集後記

◆オリンピックの影響等予測困難な要素がありますが、ワクチンの接種率が高まり新型コロナウイルス感染症の流行が終息に向かう事を願います。◆山口県では全国でも早いペースでワクチン接種が進んでいます。行政と医療現場の連携が図れていることも要因の一つと聞いています。ワクチンに限らず、連携の重要性を改めて認識しました。◆感染防止対策であらゆる業務が変化しています。一例として、家族への説明にモバイル機器の導入等を試みています。お互いに慣れない状況の中で、改めて意思疎通の難しさと大切さを実感しています。◆そろそろコロナ後についても具体的な準備を始めなければなりません。今回の経験をどのようにサービスの質の向上に繋げることができるかが課題です。 （木下 祐介）